

スタートアップ・エコシステム拠点形成計画

令和4年度フォローアップ報告

コンソーシアム等の名称：スタートアップ・エコシステム 東京コンソーシアム



I. エコシステム形成促進主体について	3
II. 地方自治体の取組	15
III. 民間組織の取組	24
IV. 大学の取組	28
V. 都市の環境・繋がり の状況	34
VI. ウィズコロナ・アフターコロナ、 グローバルを考慮した拠点形成	37

I. エコシステム形成促進主体について(1/12)

1. 拠点形成計画の進捗状況(1/2)

令和3年度は、計画目標の達成に近づくための新たな取組として、Nextユニコーン企業の最後の一押しをする「ディープ・エコシステム」の取組を開始。

指標	計画時点	2021年7月 時点	現状 (2022年6月時点)	目標 (2024年)	目標 (2030年)
ユニコーン級創出数(累計)	3社 (2019年)	8社	9社	20社	—
Startup Genome社 Global Startup Ecosystem Report	調査対象外 (2019年)	15位 (2020年)	9位(2021年) 12位(2022年)	10位以内	5位以内
行政課題解決プロジェクト 創出数(累計)	—	14件 (2020年度実績・つくば市 含む)	48件 (2020～2021年度実績・渋谷 区、横浜市、つくば市含む)	50件	100件
2thinknow社 Innovation Cities Index	2位 (2019年)	2位	1位	1位	1位(維持)
海外高度人材 (高度専門職・経営管理ビザ数)	15,956人 (2018年)	18,829人 (2020年6月)	(データ集計待ち)	35,000人	50,000人
外国企業誘致数(累計)	719社 (2012～2018年度)	795社 (2012～2019年度)	882社 (2012～2020年度) (2020年度実績・横浜市を含む)	1,500社 (累計)	2,400社 (累計)
大学発ベンチャー数 (コンソーシアム加盟大学)	533社 (コンソーシアム 加盟大学の総計)	928社 (コンソーシアム 加盟大学の総計)	1,128社 (コンソーシアム 加盟大学の総計)	倍増 (コンソーシアム 加盟大学の総計)	—

※その他指標：ディープ・エコシステムの取組によるスタートアップ支援（累計） 2社（令和3年度）

I. エコシステム形成促進主体について(2/12)

1. 拠点形成計画の進捗状況(2/2) Global Startup Ecosystem Ranking について

東京コンソーシアムのKPIの1つであるGlobal Startup Ecosystem Ranking (GSER)について、2021年ランキングにおいて9位にランクインし、初の10位圏内を達成。

2022年ランキングでは12位となったが、原因をコンソーシアム全体で分析し、2024年に再び10位以内を達成すべく、更にスタートアップ・エコシステム形成を促進するための取組を検討・実施する予定。

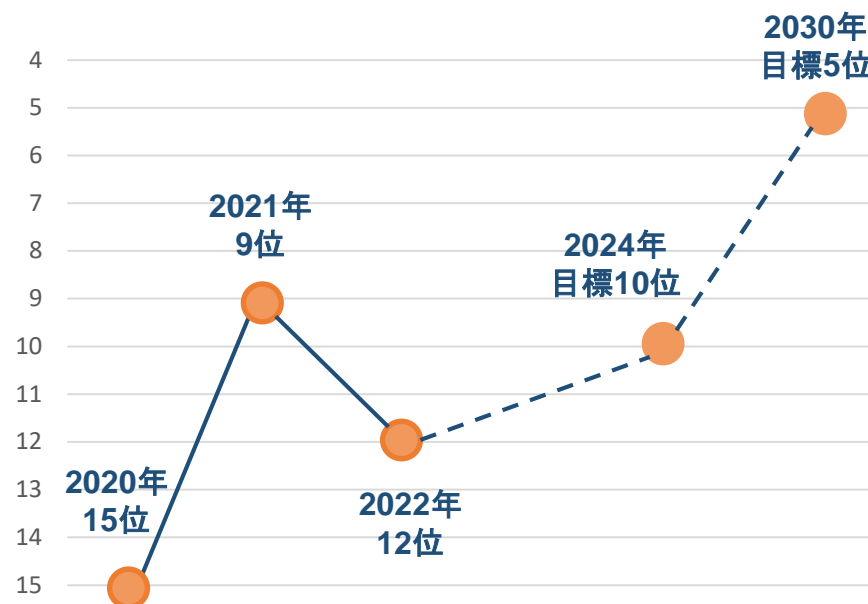
GSER2021 東京:9位。初の10位圏内。

- スタートアップへの投資が伸び、投資家の規模や経験が上積みされたこと、50億を超えるExitが堅調に推移し、また1,000億円規模のExitの数が伸びるなど、スタートアップのExitの数、質がともに向上していることが評価

GSER2022 東京:12位

- 世界的に2021年はExit市場が好況で市場規模が増加傾向である一方で、東京のExit時の企業評価額が他都市より低く、また東京の市場データが海外に認識されていないことから、Exit指標等が相対的に降下

Global Startup Ecosystem Rankingにおける東京の順位



ランキングアップに向けた令和4年度の取組

Global Startup Ecosystem Ranking2024 における10位以内の達成に向け、GSER等のコンソーシアムの指標の結果等を分析・検討するワーキング・グループを開催し、東京コンソーシアム圏内におけるエコシステムの現状分析や更なる取組を検討予定。

1. エコシステム形成促進主体について(3/12)

2. 東京コンソーシアムの趣旨

東京コンソーシアムは、スタートアップ・エコシステムのグローバル拠点都市としての地位確立に向け、東京や「グレーター東京」の多様な産業集積を活かし、新たなつながりを生むプラットフォームとして設立

特色

- ・ 東京は日本一のヒト・カネ・知の集積地。
(都市圏人口約3,800万人、都内総生産約115兆円、国内トップ大学の約3割が集中、Fortune Global500企業の所在数世界第2位 等)
- ・ この資源を最大限に活かし、**新たなつながりを生むプラットフォームを形成**
- ・ 東京都心部を核として、「**グレーター東京**」としてハブ&スポークの形で連携の輪を都外拠点にも拡大。
国や海外拠点と連携し、エコシステムをさらに拡充

2. つながり創出

多様なプレイヤーをネットワーキング
大企業から中小まで幅広い参画を得て、
新たなつながりを創出
オープンイノベーションを推進

1. 情報共有・基盤強化

多様な資源の実態を
把握、情報共有。タイムリーに
情報が届くサポートを実現

3. 見える・魅せる東京へ

東京のスタートアップ・エコシステムを広く発信。
中からも外からもビジブルに、海外
スタートアップ・投資を惹きつける東京へ

4. 国との連携

グローバル拠点都市として日本の
成長戦略に貢献。
タイムリーな規制緩和や施策を提案要求、
海外PR等へも協力

5. 広域連携のイノベーション・ハブ

東京圏の拠点都市との連携により、
幅広い機能を実現

「点」×「深さ」のディープ・エコシステム：

コンソーシアム会員のネットワークを活用し、スタートアップをユニコーン級に成長させる取組の推進

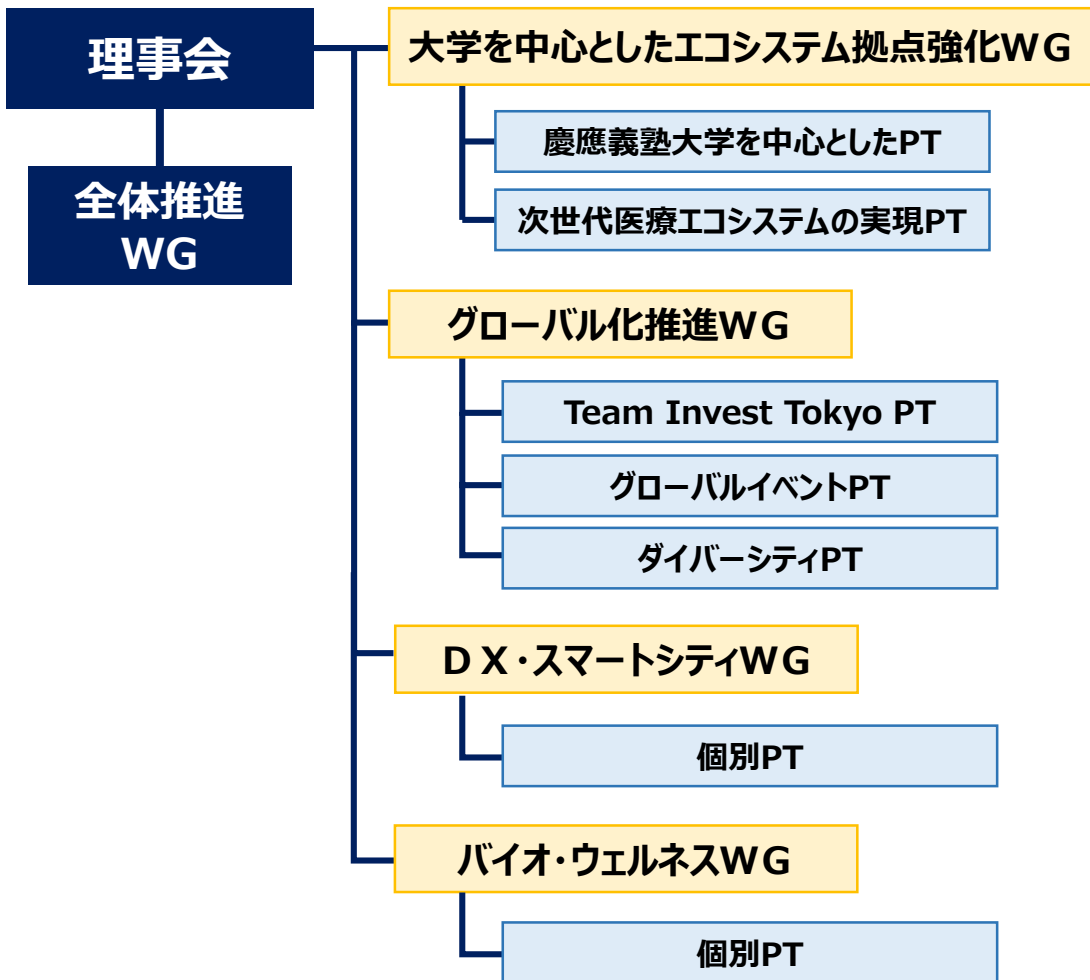
「面」の汎用エコシステム：

スタートアップと企業・個人・大学等の相互連携を強化、データの活用を促進、広域なプラットフォームを整備

I. エコシステム形成促進主体について(4/12)

3. エコシステム形成促進主体の構成組織と役割分担

令和4年度の体制



主なメンバー

- 都内民間事業者（デベロッパー、金融機関、事業会社等）
- 団体（経団連、経済同友会、新経連、東商、日本VC協会、ジェトロ、東京証券取引所等）
- 大学（東京大、慶應義塾大、早稲田大等）
- VC、スタートアップ（上場済含む）
- 都内自治体
- 広域連携自治体（川崎市、横浜市、茨城県、つくば市、和光市、千葉市※）
※2022年6月入会
- 東京都（事務局）

会員数：274（2022年3月31日現在）

エコシステム形成に向けて、大企業、大学・研究開発法人、自治体、経済団体、VC・アクセラレータなど幅広い主体が参画。会員数は、2021年度の間で50団体以上増加

I. エコシステム形成促進主体について(5/12)

4. 東京コンソーシアムの取組概要

① ディープ・エコシステムでの支援	ユニコーンやIPO、M&Aを目指すNextユニコーン企業に対し、都内の知の集積を最大限活用して集中的に支援し、最後の成長を一押しする取組。初年度となる令和3年度は、2社を審査会により選抜し、支援を実施。
② 国からの支援連携	国主催のアクセラレーションプログラムの募集に際し、東京コンソーシアムにおいて有識者の協力のもと、「優先枠」（審査不要で参加可能）企業：6社、「推薦枠」（審査時加点）企業：9社、計15社を選出
③ ワーキンググループ(WG)実施 プロジェクトチーム(PT)設置支援	計13回のWG実施（理事会との合同開催含む）、会員のニーズに応じ年間を通じたPTの設立支援を実施
④ 都庁内及び企業連携支援	会員のニーズに応じ、年間を通じてスタートアップと大企業・東京都各局などとの連携を促進。また、東京都産業労働局、デジタルサービス局と連携し、新規会員の入会を促進。
⑤ 支援メニューマップの提供・発展	東京都や東京コンソーシアム会員（サポーター組織・企業）が独自に行うスタートアップ支援策情報を一元化し、ウェブサイトで発信
⑥ 規制緩和支援	東京都「規制改革コーディネーター」事業と連携し、会員の規制緩和要望を受け付ける規制緩和相談窓口を設置し、常時受付体制を整備。
⑦ イベント開催	スタートアップ等の会員やStartup Genome社等の海外組織等が登壇し、会員同士のマッチング促進やエコシステムへの理解を深めるイベントを計13回実施。
⑧ 広報支援	ホームページを作成し、コンソーシアム内の取組を国内外に発信
⑨ 大学間連携	JST令和3年度大学発新産業創出プログラム（START）において、コンソ会員を含む85機関が行う「Greater Tokyo Innovation Ecosystem（GTIE）」が採択。またJST共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）においては、「誰もが参加し繋がることでウェルビーイングを実現する都市型ヘルスコモンズ共創拠点」（慶應義塾大学）が採択。
⑩ Slackを活用した情報連携	会員全員が参加しているSlackの運用（会員相互の情報発信支援）

I. エコシステム形成促進主体について(6/12)

5. 東京コンソーシアムの主な取組1(理事会・ワーキンググループの実施(1/2))

東京コンソーシアムの活動方針等を決議する理事会や各WGを以下のとおり実施。理事等の会員と常に連携しながらコンソーシアム運営を行うとともに、テーマ別WGでは、会員間の事業連携や会員の取組共有等を実施

○理事会・全体推進WG(4回)

理事会・全体推進WG	日程	メインテーマ
第1回全体推進WG・理事会	R3. 8	成果指標、令和3年度取組・スケジュール、ディープ・エコシステムについて
第2回全体推進WG(書面)	R4. 2	第3回全体推進WGのアジェンダについて(ご意見伺い)
第3回全体推進WG	R4. 2	第2回理事会のアジェンダについて(ご意見伺い)
第2回理事会	R4. 3	令和3年度取組報告、次年度の方向性について

○テーマ別WG

【大学を中心としたエコシステム拠点強化WG】(4回)

回数	日程	メインテーマ
第1回	R3. 7	START 大学・エコシステム推進型スタートアップ・エコシステム形成支援申請について
第2回	R3. 8	START 大学・エコシステム推進型スタートアップ・エコシステム形成支援申請について
第3回	R4. 2	東京が一丸となって取り組むべきアントレ教育とは
第4回(書面)	R4. 2	「幸福100年社会を築く次世代医療エコシステム実現PT」について(順天堂大取組)

I. エコシステム形成促進主体について(7/12)

5. 東京コンソーシアムの主な取組1(理事会・ワーキンググループの実施(2/2))

【グローバル化推進WG】(3回)

回数	日程	メインテーマ
第1回	R4. 2	ダイバーシティについて
第2回	R4. 2	新規グローバルイベント(東京都主催)について
第3回	R4. 3	新規グローバルイベント(東京都主催)について

【DX・スマートシティWG】(1回)

回数	日程	メインテーマ
第1回(書面)	R4. 3	「大手町・丸の内・有楽町地区スマートシティプロジェクト」について

【バイオ・ウェルネスWG】(2回)

回数	日程	メインテーマ
第1回	R4. 1	バイオ産業の新しい動きについて
第2回(書面)	R4. 3	LINK-Jの取組について

I. エコシステム形成促進主体について(8/12)

6. 東京コンソーシアムの主な取組2(イベントの実施)

コンソーシアム会員同士の連携等を促進するため、コンソーシアムの取組周知、スタートアップ会員のピッチ、国内外のスタートアップ支援機関等との連携イベント等、多様な会員向けイベントを実施

No	日程	メインテーマ
第1回	R3. 8	キックオフ(R3の東京コンソの取組等紹介)
第2回	R3. 9	スタートアップピッチ1
第3回	R3. 9	スタートアップピッチ2
第4回	R3.10	ディープ・エコシステムの選定企業等発表／新規入会スタートアップ会員ピッチ
第5回	R3.11	Startup Genomeの登壇セッション
第6回	R3.11	海外インフルエンサー登壇のパネルディスカッション ※都事業FamTrip(東京のビジネスの魅力を海外インフルエンサーに紹介)と連携
第7回	R3.12	イスラエル商工会議所・スタートアップ登壇イベント ※都事業Invest PR Tourと連携
第8回	R4. 1	創薬関連ベンチャーピッチ ※都事業「創薬・医療系ベンチャー育成支援プログラム(Blockbuster TOKYO)」と連携
第9回	R4. 1	大田区・川崎市の取組紹介、両市区の関係スタートアップピッチ
第10回	R4. 2	共創の場(慶應義塾大学)取組紹介／新規入会スタートアップ会員ピッチ
第11回	R4. 3	Thursday Gathering(Venture Café Tokyo主催)連携イベント 株式会社ラック、CollaboGate Japan 株式会社のパネルディスカッション
第12回	R4. 3	ディープ・エコシステム成果発表／今年度の取組報告、次年度の取組方向性
第13回	R4. 3	Thursday Gathering(Venture Café Tokyo主催)連携イベント 東京医科歯科大学、三菱地所株式会社のパネルディスカッション

I. エコシステム形成促進主体について(9/12)

7. 東京コンソーシアムの主な取組3(ディープ・エコシステム(1/4))

【ディープ・エコシステム】

- 令和3年度から、計画目標の達成に近づくための新たな取組として、Nextユニコーン企業の最後の一押しをする「ディープ・エコシステム」を開始
- 令和3年度は2社を選抜して支援。令和4年度は5社程度に支援対象企業数を拡大予定

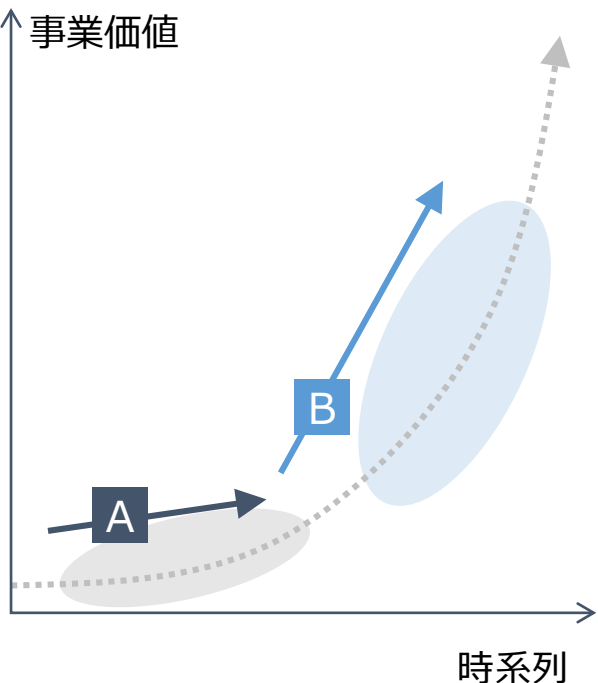
ディープ・エコシステムの考え方

- 時価総額が高だけでなく、イノベーションを社会実装する質の高いユニコーン級企業を創出するために、少数精鋭のプレイヤーとコンソ会員が緊密に連携し、スタートアップの成長を支える“ディープ・エコシステム”を形成

スタートアップの成長ステージ

成長に向けた課題例

必要なエコシステムの種別



B
ビジネスが
突き抜ける
フェーズ

- ✓ 技術やビジネスモデルのブレークスルーを起こせない
- ✓ 顧客リテラシーが課題で技術・商品の魅力が伝わらない
- ✓ ここが動けば、業界が変わる「分水嶺」にあたるキーマンにアクセスできない

ディープ・エコシステム

- 個別のビジネス分野ごとにおいて、そのビジネスのブレークスルーを支援する「ディープ」なエコシステム
- 個別分野に特化した専門性を持つ大学・民間の研究室、企業の事業部門、投資家・アドバイザー等によって構成

A
ビジネスを
立ち上げる
フェーズ

- ✓ 事業の立上げ方がわからない
- ✓ 事業計画、収支計画の作成方法がわからない
- ✓ 大企業との付き合い方がわからない
- ✓ マネタイズ化のタイミングがわからない

面のエコシステム

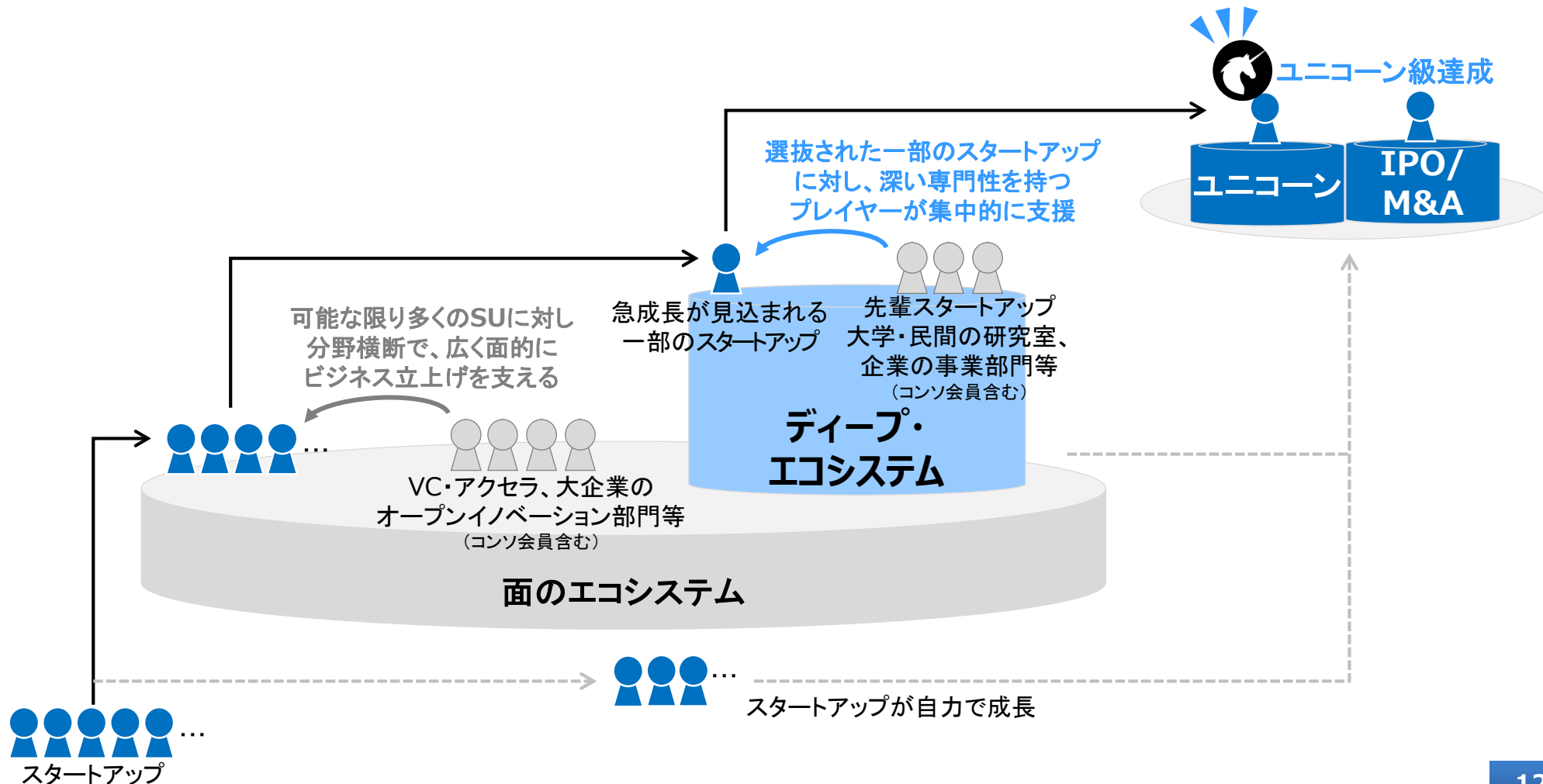
- 分野横断で、広く面的にスタートアップ全体のビジネス立上げを支えるエコシステム
- 先輩起業家・メンター、インキュベーター等、特定領域に限定されないプレイヤーによって構成

I. エコシステム形成促進主体について(10/12)

7. 東京コンソーシアムの主な取組3(ディープ・エコシステム(2/4))

【ディープ・エコシステムの概念図】

既存の「面のエコシステム」では可能な限り多くのスタートアップに対してビジネスの立ち上がりを支援しつつ、レイターステージ期において、今後急成長が見込まれるスタートアップを選抜の上で集中的に支援する「ディープ・エコシステム」を新設し、ユニコーン級への成長を強力に後押し



I. エコシステム形成促進主体について(11/12)

7. 東京コンソーシアムの主な取組3(ディープ・エコシステム(3/4))

取組初年度となる令和3年度は、国内外のベンチャーキャピタル・機関投資家や、先輩ユニコーン級スタートアップ、アカデミア、法務専門家などの確かな目をもった有識者等で構成される審査会により、ユニコーン級へと急成長が期待できる以下の2社を選定した。

令和3年度 ディープ・エコシステムでの支援実績(支援先企業)

エレファンテック株式会社



Elephantech

- 金属ナノ粒子をインクジェットで必要な部分にのみ印刷し、無電解めっき技術で金属を成長させる独自技術を用いて、フレキシブルプリント基板の製造等を行う
- 従来の製造法と比較して、工程数を1/2、廃液量を1/10以下まで抑えることができ、環境負荷低減にも寄与

株式会社メトセラ



METCELA






- ダメージを受けた心組織の回復を促す働きを持つ線維芽細胞と精密に投与可能な新しいカテーテルを用い、心不全をはじめとする線維症関連疾患に対し、患者本人の細胞を用いた新しい再生医療等製品を開発
- 同社の技術は、根本的な治療方法が確立していない心不全において、移植以外の選択肢となる技術として期待されている

I. エコシステム形成促進主体について(12/12)

7. 東京コンソーシアムの主な取組3(ディープ・エコシステム(4/4))

厳選した対象企業に対して、各社のニーズを踏まえ、コンソーシアム全体で支援を実施

【主な支援実施例】

野望と、 達成の道のり を描く	ユニコーン級までの 道のりをインプット 	<ul style="list-style-type: none">既にユニコーン級になった、もしくはエグジットを果たしたコンソの先輩SUから、何に気を付けるべきか、何を優先すべきか等をインプット
	3月末時点 達成目標を決定 	<ul style="list-style-type: none">インプットを踏まえて、ユニコーン級になるまでの道筋、及びその道筋の中で、3月末までに何を達成するかを決定(事務局が支援)
野望達成に 向けた 各種支援 (ニーズに 応じて支援)	ファンドサポート 	<ul style="list-style-type: none">審査会委員等を含む国内外VCへの紹介など
	人材・知見 	<ul style="list-style-type: none">CXOクラスやコーポレート機能に係る人材等の採用サポートコンソーシアムのネットワークを活かし、関連分野の大学教授・研究員への紹介、等
	広報・事業機会 	<ul style="list-style-type: none">コンソ内のイベント等にて企業・事業概要や今年度の成果等を発表コンソーシアム内外の関係者との引き合わせ

II. 地方自治体の取組(1/9)

1. 首長の方針(小池都知事発言)

(東京都議会令和2年第三回定例会 知事所信表明 令和2年9月18日)

- 人々の生活を大きく変革するサービスをグローバルに展開しているアメリカの巨大IT企業も、かつては若い起業家たちが立ち上げた小さな一企業でありました。最先端のニーズを機敏に捉え、新たな製品やサービスを次々と生み出すスタートアップの育成は、東京のさらなる成長に欠かせません。
- 今般、東京は、スタートアップの育成環境を評価する都市ランキングに初めてランクインし、全体で15位、アジアでは北京、上海に次ぐ3番目の評価を受けました。また、東京の集積を活かした連携により、イノベーションの創出を図る「スタートアップ・エコシステム 東京コンソーシアム」が、このたび、国の定める「グローバル拠点都市」に選定されたところであります。
- これらを追い風に、引き続き、世界に誇るスタートアップ都市を目指した多彩な施策を展開し、「東京発」の新たなビジネスを強力に推し進めてまいります。

2. 東京都におけるスタートアップ支援組織

【担当部署】

- 政策企画局戦略事業部戦略事業課
(エコシステム担当)
- デジタルサービス局デジタルサービス推進部
デジタルサービス推進課
- 産業労働局商工部創業支援課
- 産業労働局金融部金融課

- 東京都におけるスタートアップ支援は、都及び政策連携団体がそれぞれの得意分野を活かし、的確な支援ができるよう、取組を推進
- スタートアップ協働戦略ver.1.0の策定(令和4年2月)を受け、今後東京都とスタートアップとの協働による課題解決の取組は更に加速

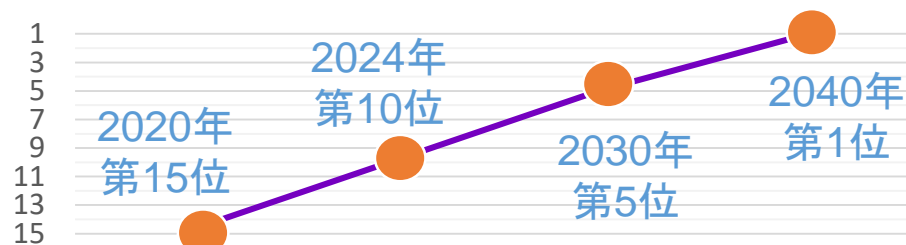
II. 地方自治体の取組(2/9)

3. 東京都の主なスタートアップ支援事業(1/3) 東京都の目指す方向性

【東京都の目指す方向性】

「『未来の東京』戦略」(2021年3月)

- 2040年までに“次々と新しい産業が生まれる世界一のスタートアップ都市・東京”の実現を目指し、「東京コンソーシアム」が推進母体となり、実現に向けた取組を進めている。



東京都としても、「未来の東京戦略」の中で、スタートアップ・エコシステム・ランキングにおいて、2030年までに世界第5位を目指している。

「『未来の東京』戦略 version up 2022」(2022年2月)

- “イノベーション・エコシステムの深化”を目指すとともに、“エコシステムの内外への情報発信”を積極的に行うことで、東京コンソーシアムの取組を更に強化する。
- 「スタートアップ協働戦略 ver.1.0」(2022年2月)を策定し、東京都とスタートアップとの協働により「未来の東京」を共創していく。

「スタートアップ・エコシステム 東京コンソーシアム」等の重点強化

イノベーション・エコシステムの深化

情報プラットフォームを構築 オンラインコミュニケーションツールを活用し、会員同士が相互につながる場を創出	ディープ・エコシステム形成 海外展開を視野に入れた有望なスタートアップに対し集中支援を実施	WG・PTの組成を支援 会員間のコラボレーションを支援し、産官学が連携するエコシステムを形成
--	---	--

エコシステム内外への情報発信

支援情報を一元的に発信 都のスタートアップ支援メニューをまとめ、分かりやすく可視化	国際的な発信を強化 海外VC等を呼び込むイベントを開催するほか、エコシステムに係る指標をダッシュボード等で公開
---	---

CONSORTIUMの強化とスタートアップとの協働等により、**世界へ羽ばたくスタートアップを輩出**

社会課題解決に向け、「スタートアップ協働戦略 ver.1.0」を推進

- ✓ VCや大手企業など多様な主体と連携し、協働の取組を更に推進
- ✓ スタートアップ等が入居する支援拠点へ都職員を派遣するなど、幅広い協働の取組を支える仕組みを構築
- ✓ ワンブランドでの情報発信など、スタートアップと都職員とのコミュニケーションを深化

II. 地方自治体の取組(3/9)

3. 東京都の主なスタートアップ支援事業(2/3)

【スタートアップ支援に関する主な個別事業(令和4年度予算)】

①エコシステム形成支援業務(2億2百万円)

- 大手企業や、投資家、大学、研究機関、創業支援機関など様々な関係者が連携してイノベーションの創出を図る「エコシステム」の形成促進に向けた支援・取組を実施

②創業支援拠点の運営(11億69百万円)

- 創業希望者を掘り起こし、裾野を広げるとともに、起業に対する不安を解消するため、創業に関心のある誰もが利用でき、情報提供から事業化支援までをワンストップで行う拠点を開設

③次世代アントレプレナー育成プログラム(1億34百万円)

- 次世代を担う若者を対象としたビジネスプランコンテストを開催し、起業に挑戦する機会を提供する。ファイナリストには、経営者としての資質やリーダーシップを磨くための育成メニューも提供

④スタートアップ総合支援拠点の運営(旧:共存共栄を図るベンチャー育成事業)(4億55百万円)

- 成長志向のあるベンチャー企業の更なる成長を支援するために、国や地域、業種・業界を超えた連携関係・事業組成を生み出すための支援施設を設立・運営するとともに、育成プログラムを実施

⑤スタートアップ・グローバル交流HUB事業(6億36百万円)

- 有望な都内スタートアップの海外進出とスケールアップをサポートするため、海外の展示会・大規模ピッチ会に参加する海外現地プログラムを実施。また、有望な海外スタートアップを東京に呼び込む交流プログラムを実施

II. 地方自治体の取組(4/9)

3. 東京都の主なスタートアップ支援事業(3/3)

⑥創薬系オープンイノベーション支援事業(1億76百万円)

- 製薬企業、支援機関、投資家等が集積する東京の強みを活かし、創薬・医療分野におけるオープンイノベーションの促進を支援

⑦キングサーモンプロジェクト(King Salmon Project)(2億71百万円)

- スタートアップと都政課題のマッチング、都政の現場を活用した先行導入と販路拡大のための戦略立案等の支援、事例のモデル化による水平展開を通じて、今後のロールモデルとなるような、グローバル市場を席捲する課題解決型のスタートアップ企業(「キングサーモン企業」)を東京から輩出

【スタートアップ協働戦略 ver.1.0】 令和4年2月策定

- 都とスタートアップ(SU)との協働による課題解決の取組を更に推進していくため、協働する上での課題・問題点などをスタートアップやアクセラレーターに対しアンケート、ヒアリング調査を実施し、この結果をもとに令和4年2月に「スタートアップ協働戦略 ver.1.0」を策定した。

※ 概要は次頁以降

スタートアップ協働戦略 ver.1.0 ～スタートアップと東京都で「未来の東京」を共創する～

2022年2月
スタートアップ協働戦略プロジェクトチーム



(参考)スタートアップ協働戦略

WHY_なぜスタートアップ (SU) との協働に取り組むのか

(スタートアップ協働戦略ver.1.0より)

- 将来の予測が困難な「VUCA※1」の時代、既存の仕組みや考え方に固執しては、迅速な課題解決や多様化するニーズを捉えられなくなっています。こうした中、都は構造改革に取り組み、状況の変化に弾力的に対応できる組織に生まれ変わろうとしています。
- 世界に目を向けると、**GAF A** ※2に代表される**スタートアップ**が時代のニーズを機敏に捉えて、**次々と新しい製品やサービスを創出**してきました。
- 既存の仕組みへの挑戦を恐れず、**新しいビジネスモデル・新しい価値の創造を目指すスタートアップは、都庁と共に社会課題を解決し、未来を実現する重要なパートナー**です。
- 都は、既存の仕組みへ挑戦し、新しい価値の創造を目指すスタートアップとともに、「未来の東京」を創っていきたいと考えています。

※1 Volatility・Uncertainty・Complexity・Ambiguityの頭文字を取った略称

※2 Google, Apple, Facebook, Amazonの頭文字を取った略称

(参考)スタートアップ協働戦略

スタートアップ協働戦略 ver.1.0の概要

戦略1 様々な協働の取組を更に推進

- ピッチイベントやキングサーモンプロジェクトの活用
- VCや大手企業など多様な主体との協働の仕組みの構築
- 都立大学との共同研究や大学保有の施設活用

戦略2 協働の取組を支える仕組みを構築

- 契約・支出事務のデジタル化を推進
- 政策目的随意契約の活用
- SU支援拠点への職員派遣や意欲ある職員の庁内公募

戦略3 SUと都職員とのコミュニケーションを深化

- ワンブランドでの情報発信とポータルサイトの構築
- コミュニティプラットフォームの構築・協働事例の見える化
- 人事交流やセミナーの開催